

まずは一度、お気軽にお出かけ賜り、月例会の様子を御覧下さいますよう。

五月例会御案内

(平成二十六年・通算第三三三回)

時代を刷新する会

<http://www.jidaisassin.jp>

○御案内

五月十四日(水) 正午～午後二時半

衆議院第一議員会館 地下一階・第二会議室

議題 東日本震災の統合任務部隊指揮官として!

講師 君塚栄治先生(前自衛隊陸上幕僚長、東日本震災救援の自衛隊総指揮官)

平成二十三年三月十一日発生の東日本震災・大津波は、死者一万七千人、行方不明者二千人、その後の関連死者二千数百人、合計二万数千人の未曾有の人的被害であり、犠牲者に改めて哀悼の意を捧げます。しかも、それに加え、福島第一原子力発電所でメルトダウンが発生し、冷却水補給はじめ、その対策も未曾有のものであり、現在、将来にわたる大問題です。あの東日本震災・大津波・原発事故について、時の民主党政権は、その対策に戸惑い、やがて、陸上自衛隊十万人余の出勤を命令しました。その時の自衛隊総指揮官が君塚栄治陸上幕僚長でした。三月といっても現地は厳寒であり、自衛隊の方々の御苦労は大変なものであったと伝え聞きしております。そこで、向後の大災害対策のこともあり、当時の自衛隊総指揮官・君塚栄治前自衛隊陸上幕僚長にお出でいただき、当時の状況、そして、今後参考になる問題点を、お話しいただくことにいたしました。重要課題、お誘い合わせ、奮って御参加を!

◎ 当日会費

四千円(昼食・講師料ほか)

五月十二日(月)までに欠の御連絡賜りたく!

(清原記)

□ 御報告

四月の月例会は、いつもの月例講話会とことなり、六本木の国立新美術館三階の展示室にて十日間にわたり開催されている「現代日本書家協会」主催『全国公募書道展』初日・四月十六日の午前十一時現地集合にて、その書道展の展示作品を会長の解説付きで鑑賞いたしました。と申しますのは、この催しは、姉妹団体「公益財団法人協和協会」が共催している毎年の催しで、今年は、その「第三十回 全国公募書道展」という節目に当たることから、また、当団体も以前より応援してきていたので、当日、鑑賞会に参加した次第です。いま、この「現代日本書家協会」の『全国公募書道展』の由来について触れておきますと、

昭和六十一年のお正月ごろ、愛媛県今治市在住の関西で有名な書道家・大西東泉師が上京して清原を訪ねて来られました。うかがうと、「戦前は、書道が必須科目であったが、戦後、必須科目でなくなりました。そこ、日本の漢字文化が衰えつつある。書を書くという事は、日本人の精神文化である。そこで、『現代日本書家協会』を創り、全国に呼びかけ、年一回、全国公募書道展を開いている。ついては、厳格な審査を経た上で、その優秀者へ、内閣総理大臣賞、衆・参議院長賞、関係大臣賞を出すようにしていただけないでしょうか」との陳情であった。そこで、清原が、岸信介会長にお諮りすると、岸先生は、「なるほど、それは教育上、意義あることだから、私の名前で、その手配を進めてくれ」と言われたので、総理官邸、衆・参議院長室、関係大臣室を廻ってお願ひし、以来、毎年、賞状を下付していただいている、という経過です。その大西東泉先生も毎年一万点もの作品を審査することから心臓を悪くされ、この公募事業を、立派な書道家に引き継ぎたいとの申し出があり、岸先生とのお縁も深い書道家の大日方鴻允先生に引継ぎ、今日、三代目の大日方鴻允会長に至っているという経過です。

(清原記)

▽ 当「時代を刷新する会」は、「何事も人類・国民のためになることには、時代を先取りして積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって設立されたシンクタンクです。晩年の岸元総理がそうであったように超党派・超派閥で、真に国を憂える有志により構成されています。第二代会長は、木村睦男元参議院議長。第三代が櫻内義雄元衆議院議長。第四代・塩川正二郎元財務大臣は、九十歳を機に辞任。現在は、江口一雄元衆議院議員が会長代行に就任しており、理事長は、平成十四年から半田晴久が就任しております。

毎月の月例会のほか、内部に、教育部会、安全保障部会、医療福祉部会など八つの部会と、環境技術委員会、新エネルギー委員会等の委員会があり、これまでに、政府へ一三七本に及ぶ要請書・意見書を提出するなど、活発な活動を展開しております。

▽ 事務局電話(03)

3272-4320 専務理事兼事務局長・清原淳平、総務 重田、高津

◎ 同封のハガキまたはFAXにて、五月十二日(月)までに、着信をお願い申し上げます。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

五月十四日(水) 正午～午後二時半

出・欠

衆議院第一議員会館地下一階第二会議室